

第7回車座交流会 in 仙台のご案内

未来の被災地。それは南海トラフ地震の被害を受ける可能性が高い首都圏や太平洋側の沿岸部全てです。震災が起きたらどう避難し、当面の危機を回避するか。復興の地域づくりをどのように進めるか。心災にどのように対応するか。第7回車座は、東日本大震災から4年目の春を迎え、これまでの3年間、岩手、宮城、福島で復興の地域づくりに取り組んできた皆さんに学び、未来の災害に備えるとともに、東北の美しい未来づくりをさらに加速させるための手法や具体策を議論する場です。復興を推進してきた東北と首都圏の女性や若者が集い語り合います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【スケジュール（予定）】

5月30日（金）

…仙台市内津波被災地域訪問…

「仙台はもう復興した」—そう思われがちですが、仙台市内沿岸部は津波による被害が大きく、今も復興途上です。被災地の『今』を、あなた自身が見て・感じて、ともに考えてみませんか？

11:00 仙台駅西口集合 バスにて移動

11:30 津波被害を受けた
キリンビール工場見学

12:00 昼食

13:00 被災地（南蒲生地区）の女性たち
との懇談
（被災体験や今のまちづくりなど
についてお話いただきます）

14:30 農業再生地域見学（予定）

15:30 蒲生干潟の回復状況視察

16:00 バスにて松島市内へ移動

17:00 ホテル到着

17:15 3年間の活動報告・
直面する課題とこれから
（途中から夕食）

5月31日（土）

…東松島市訪問&車座ワークショップ…

8:30 ホテル出発 バスにて移動
東松島市へ

9:00 よつばファーム
（若手農家による被災農地再生）

10:00 のり工房矢本
（女性たちによる漁業の再生）

11:30 昼食 げんちゃんハウス
（津波被害を受けた民宿の女将さん
たちのおもてなし料理）
会場：宮戸市民センター

バスにて仙台市内
（エル・パーク仙台）へ移動

13:30 防災ワークショップ体験

14:40 車座ワークショップ

17:00 全行程終了

17:30 仙台駅にて解散

宿泊先：松島町「新富亭（しんとみてい）」 <http://www.hotel-shintomi.co.jp/>

〒981-0213 宮城県宮城郡松島町 松島字垣ノ内 38-1

TEL：022-354-5377

主 催：認定NPO法人JKSK 共 催：仙台市・（公財）せんだい男女共同参画財団



< キリンビール工場 >

宮城野区沿岸部に位置する工場は、津波でビールタンクが流されるなど、大きな被害を受けました。操業が再開できたのは半年後。岩手県遠野市で収穫されたホップを使ったビールが出荷され、被災地の人々にとっては感慨深いものでした。

被災当時の状況について説明を受けながら、工場内を見学します。

キリン株式会社は「復興応援キリン絆プロジェクト」をはじめ、地域密着の支援を続けています。

< 蒲生干潟（がもうひがた） >

仙台市東部に位置する蒲生干潟。

東北太平洋沖地震による津波で、以前のような干潟はすっかりなくなってしまいましたが、少しずつ再生し始めています。その回復の過程を見守り続けている仙台市科学館職員による解説を聞きながら、蒲生干潟を見学します。

< よつばファーム >

もともとは無農薬、減農薬の野菜とお米を作っていた個人農家でしたが、震災後起業し現在はレストランへの出荷を中心に野菜の生産を行っています。昨年夏は、無農薬の申請で甘いトマトを直接収穫し、その場で食べていただくトマト狩りを行い、大好評でした。

今年もより開かれた農業を目指していらっしゃる「よつばファーム」の取り組みを見学します。

<https://www.facebook.com/yotsubafarm>

< 株式会社みちさき >

津波被害を受けた塩害農地で、大規模な溶液栽培施設を設置。震災前と同じ農業に復旧するのではなく、逆境を利用した農業再生を目指しています。

また、地元の住民を積極的に雇用するなど、南蒲生地区の復興・まちづくりの一翼を担っています。

< のり工房 矢本 >

東松島市の中でも被害が大きかった大曲地区。多くの海苔養殖業者が休業・廃業を余儀なくされるなか、「のり工房 矢本」は奇跡的に被災を免れた「皇室御献上のり」を買い戻し、製造・販売を2011年5月から再開致しました。

「この海苔を育む大曲浜の名前を、震災で忘れられてしまうのが怖かった」被災者だからといって立ち止まっているわけにはいかないという思い、経済的な理由で再開できない同業者や、亡くなった人たちのために、がんばる女性たちを訪問します。

<http://www.norikoubou-yamoto.com/>

< げんちゃんハウス >

2日目の昼食は、津波で民宿と自宅を流された民宿の女将さんたちのおもてなし料理です。会場の市民センターは、津波による流出後、ボッシュ・イン・ジャパンから寄贈されたプレハブで活動再開しています。

<http://miyato.main.jp/>

< 「みんなのための避難所作り」ワークショップ体験 >

東日本大震災の被災地としての経験を生かし、防災のまちづくりに多様性配慮に向けた女性の視点を反映させることを目的とした仙台版防災ワークショップ「みんなのための避難所作り」を体験します。

このプログラムは、(公財) せんだい男女共同参画財団職員と仙台市民とで結成した「せんだい防災プロジェクトチーム」が作成しました。